

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津南高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が学校教育目標の実現に向けて組織的に取り組み、農業と家庭の専門高校としての特徴を活かした教育活動等を行い地域からも高い評価を得ている。 学校評価の中間評価のアンケート結果や意見を反映させ、ICTの積極的な活用や授業公開などを行い、生徒の興味関心を引き出しながら、分ける授業への取り組みを推進することができた。 職員の会議日程の効率化への具体的取り組みにより働き方改革を推進し、職員の心と体の健康を維持することで、きめ細やかな生徒指導に繋げることができている。 今後も地域に根ざした学校づくりを行い、「生徒が行きたい」「保護者が行かせたい」「地域住民から必要とされる」そして「職員が勤務したい」学校を創っていく。
2 学校教育目標	<p>農業と家庭の専門教育を通して、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。</p> <p>(1) 素直な心で学ぶ意欲と態度を養成する。</p> <p>(2) 専門的な知識・技術を習得し、自ら実践する態度を養成する。</p> <p>(3) 豊かな人間性や社会を生き抜く力を養成する。</p> <p>(4) 勤労、責任、協力を重んじる生活態度を養成する。</p>
3 本年度の重点目標	<p>(1) 基礎・基本の定着と学力向上を図り、確かな学力のもとに、より高い目標による進路実現を目指す。</p> <p>(2) 元氣な挨拶、礼儀作法を身に付け、優しさや思いやりの心を醸成し、将来社会人としての資質向上を目指す。</p> <p>(3) 地域との連携を強化し、地域資源の活用や地域貢献を推進する。また、適宜情報発信を行うことで、地域に根ざした信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>(4) 働き方を再考し、業務改善を推進することで職場環境の最適化を目指す。</p>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○専門的な知識や技術の向上	○卒業までに複数の3級以上の資格を取得した者を80%以上にする。 ○日本農業技術検定3級の合格率を75%以上にする。 ○家庭科技術検定4級、3級、2級(被食)の合格率100%を目指す。	・資格は取得しなければならないものという意識を徹底し、積極的に取り組む姿勢を高める。 ・各科、各教科ごとに全体指導、個別指導を徹底し、合格率を向上させる。	A	・取り組みに関しては学科間の温度差があるが、3級以上の資格複数取得率は3年生:100%、2年生:81%、1年生:58%であった。 ・日本農業技術検定3級の合格率は80%、家庭科技術検定では、被服は83%、食物は100%合格することができた。	A	・資格複数取得率の高さは大いに評価できる。検定合格率も高く、良い。 ・資格は社会に出て効果を発揮するものが多く、取得しておくことに損はない。色々な可能性を生徒たちに示してほしい。	・専門部長 ・教頭
	○生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力の育成(基礎学力の向上及び家庭学習の充実)	○就職・進学の第1希望への合格率10%を達成する。 ○基礎学力診断テストの低位層(Dゾーン)を40%以下にする。 ○学力優秀者がいないクラスを0にする。	・目標設定を早めに行い、情報収集や面接指導を充実させ、しっかりと受験対策をさせる。 ・小テストの内容に基礎学力診断テストの正答率向上を意図した内容を加え、基礎学力診断ひいては就職時に必要な学力の向上に寄与する。	B	・就職で3名、進学で5名が不合格となったため、就職・進学の第1希望への合格率は、高い合格率ではあるものの、目標を達成できず93%であった。 ・基礎学力診断テストでは、低位層(Dゾーン)が53%と目標を達成できなかったが、2年生で低位層が減少し、上位層(Aゾーン)が増えた。依然として、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。	B	・就職進学の第1希望合格率93%はすばらしいと思うが、資格取得率を増やして企業にアピールしたら、まだまだ向上すると思う。 ・定期試験だけを学習の時間に充てている生徒が多く、他の日に小テストなど学習に対する集中力を持続させることができれば良いと思う。	・教務主任 ・進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教育を90%以上にする。	・月1回(毎月30日)に各教科・各分掌への実施状況把握確認を行う。 ・取り組み計画時期前に担当者への確認を行う。	B	・道徳教育、人権・同和教育は計画どおり達成できた。 ・定期的な学年の情報交換により、学年主任を中心とした組織的対応ができていた。今後も、計画に沿った取組の実施を呼びかけていきたい。	B	・先日、学校に行った時、すれ違う生徒の挨拶の少なさに驚いた。まずは挨拶の徹底をお願いしたい。 ・年々、先輩、後輩、上下関係がなくなっているように思う。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・教育情報化推進リーダー ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止対策等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員90%以上とする。	・個別面談週間や学期毎の学校生活アンケートを通して、いじめや人間関係のトラブルの早期発見に努める。 ・対人トラブル予防のピアメディエーションプログラムや教育心理検査を実施する。 ・毎学期学年情報交換会を実施する。	A	・生徒が悩みやトラブルを打ち明けやすい環境づくり、教職員間の情報共有に努め、チームで早期対応するケースが昨年よりも増えた。組織的対応ができていたと回答した教員は97%であった。 ・支援を要する生徒にカウンセラーと連携して対応したがカウンセリングに至らないケースもあった。 ・コロナ禍で人間関係構築が苦手な生徒が急増しており、さらに細やかな対応が必要である。	A	・南高は動物とのふれあいの時間があることが、いじめの問題が少ない要因の一つだと思う。 ・要支援の生徒が確実にカウンセリングを受けられるようにお願いしたい。 ・対人のトラブルの対応は大変だと思うが、根気強く対応をお願いしたい。 ・先生と生徒では見えている世界が違うと思うので、生徒の話をよく聞いてトラブルなどを解決してほしい。	・生徒指導主事 ・各学年主任 ・教育相談担当
●健康・体づくり	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかというと感じる」と回答した生徒を90%以上にする。	・虹の松原保全活動に関する講演を実施し、身近な地域景勝である虹の松原や唐津について学びや活動を行う。 ・仕事やプロの技を知り、ふるさと唐津の魅力を感じることができるよう地域の方に外部講師として来ていただき、授業をしていただく。	B	・アンケートでは愛着を感じる、どちらかというと感じるという回答した生徒は78%であった。新型コロナウイルスによる交流活動も来年度からは制限が解除されることが見込まれるため、コロナ禍前の本校が行っていた様々な行事を実現し、生徒の佐賀や唐津への愛着醸成につなげていきたい。	B	・地元が一番だと思ってもらえるように地域の良さを教えてほしい。 ・ふるさと唐津の食材を使った旅館との取り組みは評価できる。 ・学校行事で地元のみなさんとの交流が増えることで、佐賀県民、唐津市民の人柄、愛情をわかる生徒が増えると思う。	・教務主任 ・各学年主任
	●住まいの食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上にする。 ○朝食、睡眠がきちんととれている生徒の割合を90%以上にする。	・「食育講話を実施する。 ・生活実態調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりを発行する。	A	・11月に健康に関する意識調査を実施した。その中で「健康でいるために食事は大切、やや大切」と回答した生徒は100%であった。(内訳:「大切」92%、「やや大切」8%)各教科や食育講話、食育だよりを通して食事の大切さを伝えることができた。	A	・毎日欠かせない食事を通し、命をいただくことの大切さを今後も感じていける教育と家庭内に定着できる食文化を学んでほしい。 ・農業に接する学校として、常に食の大切さを教えてほしい。	・保健主事 ・食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動習慣の改善や定着化	○週1回以上の運動習慣を持つ生徒の割合を75%以上にする。	・アンケートを通して生徒の実態を把握する。 ・授業を通して、運動と健康の大切さを学ばせる。	B	・アンケートにも運動の大切さは3年生からは多く回答が寄せられたが、コロナ禍、マスクを着用しての運動は抵抗があり、外しては周りの視線が気になるようになって、運動習慣は68%であった。	B	・部活動をもう少し生活化させてほしい。 ・コロナ禍での運動は厳しかったと思う。今後に期待する。 ・成長期にあって運動習慣68%は低い。コロナ以降は大いに身体を使う習慣を身に付けてほしい。	・保健主事 ・体育主任
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得や部活動休業日が設定しやすい環境を整える。	・職員会議資料の電子化をさらに進め、OneNote等で使用可能とし、見やすさと書き込みができる環境を実現する。 ・定時退勤推進日(毎週水曜日)を励行する。 ・職員会議と職員研修や各種小会議を同日設定することにより効率化を図る。 ・定期考査の午後に極力行事を入れないように行事を選定する。	A	・時間外在校等時間は年間を通じて概ね昨年度より減少した(1月までの月平均で、2時間32分減少)。 ・定時退勤推進日の動行は不十分であり、もっと職員の意識改革を図りたい。 ・定期考査の午後や長期休業中などに積極的に年休取得を呼びかけ、実際に取得日数も多くなっている(11月未現在昨年比+0.84日)。 ・部活動休業日も遵守できている。	A	・時間外減少の成果は大きいと思う。 ・職員一人ひとりが意識して行動しないと解決しない問題である。 ・コロナ禍で学校に行くことがなく、先生方の様子はわからないが、体に気をつけて指導をお願いしたい。 ・業務改革はわかるが部活動に活気がなくなるのはさみしい。特に野球部には頑張ってもらいたい。 ・先生方も休日に部活動の試合等で出られて大変だと思う。	・教頭 ・働き方改革推進委員
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○開かれた学校づくり	★地域への貢献及び地域との連携	★全校ボランティアによる清掃活動を学期に1回行う。 ★地域と連携したプロジェクトやボランティア・交流活動を各学科ごとに2つ以上取り組む。	・ボランティア活動が実施できるよう日程調整を行う。 ・保育の授業や食物の授業で習っていることを活かして、地域の子どもたちと交流を行う。 ・地域行政(唐津市等)と連携し、子ども食堂等へ学校生産物を提供する。 ・放課後や土日を利用して、地域の子ども食堂や子供のワークショップにボランティアへ行き、一緒に活動する。 ・生徒の学習成果を生かす場として、生徒が先生となる学校開放講座を開く。	A	・全校ボランティアとして、地域への交流及び貢献ができなかった。しかし、本校数校の清掃活動を実施することで学校への愛着心を育成することができた。 ・校内において、予定回数より少なかったが、感染対策を徹底したうえで、計6回の販売会を行うことができた。地域の方から好評であった。 ・学校開放講座で受講生に喜ばれるとともに農業の楽しさや難しさが分かり、実習に取り組む姿勢に責任感が強くなった。 ・子ども食堂や虹の松原保全活動等、地域のボランティア活動のスタッフとして年間を通じて参加、活躍することで、生徒の成長が顕著であった。 ・保育の授業や食物の授業で習っていることを活かしながら地域の子どもたちと楽しく交流を行うことができた。地域に興味関心を持ち活動することで、将来の進路にも結びつけて考え行動できた。	A	・販売会等があっても良い。 ・ボランティアや交流会、販売会など、これからも盛んにやってほしい。 ・販売会など、コロナ禍でも実施できて良かった。ボランティアも引き続きお願いしたい。 ・文化祭等で地域の方々や接する機会があるので良いと思う。学校全体でもっと地元との交流を深めてほしい。 ・ボランティアなどの参加をしてほしい。 ・ボランティア活動など、人生を豊かに向上させる取り組みや縁づくりはとて素晴らしいものがある。 ・子ども食堂など、地域との連携はすばらしい。今後も継続していただきたい。	・専門部長 ・教務主任 ・各学科主任
	○中学校へのPR活動	○一般選抜試験志願状況で学校全体の倍率が1.10倍以上を目指す。 ○出身中学校と生徒の連携を行う。	・学科の特色を生かした体験入学を行う。 ・学校ホームページや説明会等の内容をわかりやすく、本校の魅力が伝わるものとし、中学生にとって魅力ある広報を目指す。	A	・第二回の入学希望調査の結果は1.20倍であったため、体験入学、中学校への学校紹介等を通し、本校の魅力は十分伝わっているといえる。 ・本校の各種活動が地域に広く知られるようになり、各種メディアに取り上げられた。入学すれば何かができ子供が育っていく地域から期待される学校ということが、地域の小学生・中学生および保護者に認識されてきている。 ・出身中学校への学校生産物を持参しての近況報告。また、先生宛に暑中お見舞い等を送ることで、生徒の成長した姿を伝えることができ、本校の魅力を発信することができた。	A	・魅力発信もテレビ等でも伝わり、南高ブランドを十分に生徒自らの活動によりPRできていると思う。 ・出身中学校へどんどん向かい話をしてほしい。 ・福岡県や私立高校への進学がしやすくなっている中、倍率を維持するのは大変だと思う。これからも頑張ってもらいたい。 ・今の活動を引き続きお願いしたい。 ・地区で一番、人気の学校です。これからも期待に応えられる学校であってほしい。 ・広報活動で、このようなことをしているアピールしてほしい。 ・コロナ禍で控えていた部分もあるかと思うが、中学校の文化祭等に向いてアピール活動などできないものだろうか。	・教務主任 ・専門部長

5 総合評価・次年度への展望	<p>●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <p>・資格取得への取り組みは十分にできたが、進路希望達成へとつながる基礎学力の向上には改善の余地がある。より高い目標設定を促すためにも、さらに充実を図ってきたい。 ・挨拶や礼儀作法など、将来の社会人としての資質向上につながる教育には課題が残る。他者への思いやりや郷土愛を育む教育への取り組みにも、一層力を注ぐ必要がある。 ・コロナ禍でも、地域貢献活動や、地域の各団体との連携による商品開発やメニュー提供、交流活動などを行うことができた。中学生の志願倍率向上のためにも、今後さらに地域とともにある学校づくりに邁進したい。 ・教職員の時間外在校等時間は減少傾向にある。働き方改革推進のために、業務の見直し等は継続して行いが、教職員のモチベーション維持にも配慮し、学校活性化につながるよう留意する。</p>
----------------	--